

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】



|                 |                               |
|-----------------|-------------------------------|
| 1. 事故・ヒヤリハットの別  | 事故                            |
| 2. 体験した事例の名称    | 火災現場における負傷事案                  |
| 3. 体験した事例の中心的要素 | 現場活動における判断ミス。                 |
| 4. 体験した事例の原因・理由 | 現場活動において、早く火を消さなければならないという焦り。 |

【体験した事例の直接的原因について】



|                  |                                 |
|------------------|---------------------------------|
| 1. 体験した事例の直接的な原因 | 状況判断に問題があった。(延焼の広がりが思ったより早かった等) |
|------------------|---------------------------------|

【体験した事例について】



|                                  |                    |
|----------------------------------|--------------------|
| 1. 発生日時                          | 平成26年8月12日 午前5時頃   |
| 2. 発生した当時の天候                     | 雨                  |
| 3. 発生した活動現場                      | 屋内: 火点室前踊り場        |
| 4. 体験した事例の種類                     | 回答者が、自分自身で負傷した。    |
| 5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)  | 軽傷の怪我              |
| 6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)     | 切り・こすれ             |
| 7. 事例体験時の活動                      | 火災現場活動初期、[ 耐火造建物 ] |
| 8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか         | ホース延長              |
| 9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。 | 初めて体験した            |

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

|                   |                                                                 |
|-------------------|-----------------------------------------------------------------|
| ○当事者A             | 年齢[ ]歳、勤続年数[18]年、現場経験年数[5] 年、階級[消防司令補]<br>同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員] |
| ○当事者B             | 年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ] 年、階級[ ]<br>同様の活動 [ ]、任務 [ ]           |
| ○当事者C             | 年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ] 年、階級[ ]<br>同様の活動 [ ]、任務 [ ]           |
| ○その他(当事者が4人以上の場合) |                                                                 |

[illegible]

|      | 誰が(何が) | なにをした                          | その他・備考など |
|------|--------|--------------------------------|----------|
| 経過1  | 当事者Aが  | 火点室へ進入しようとしたが、鍵が施錠されていた。       |          |
| 経過2  | 当事者Aが  | 鍵を開錠するため、ドアのガラス部分を蹴り破った。       |          |
| 経過3  | 当事者Aが  | 蹴り破った際、足がガラス部分を突き破り、足首内側を負傷した。 |          |
| 経過4  |        |                                |          |
| 経過5  |        |                                |          |
| 経過6  |        |                                |          |
| 経過7  |        |                                |          |
| 経過8  |        |                                |          |
| 経過9  |        |                                |          |
| 経過10 |        |                                |          |
| 経過11 |        |                                |          |
| 経過12 |        |                                |          |

[illegible]

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できなかった 個人装備が不適切だった 後方からの監視が行き届いていなかった 他隊(員)から適切な注意を受けられなかった

### ○心理・体調について

a. あせりを感じていた

|                                       |     |
|---------------------------------------|-----|
| ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 | はい  |
| ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。         | はい  |
| ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。              | いいえ |

b. 注意力が欠如していた

|                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。       | いいえ |
| ・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 | いいえ |
| ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。             | いいえ |

c. 経験・知識が不足していた。

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。     | いいえ |
| ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 | はい  |
| ・活動に対する経験が不足していた。          | はい  |

d. 心身の不調があった。

|           |     |
|-----------|-----|
| ・体調が悪かった。 | いいえ |
| ・悩み事があった。 | いいえ |

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

|                      |     |
|----------------------|-----|
| ・装備・資機材自体に問題があった。    | はい  |
| ・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。 | いいえ |
| ・装備・資機材の対処能力を超えていた。  | いいえ |
| ・必要とする装備・資機材がなかった。   | はい  |

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

|                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| ・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。       | いいえ |
| ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |

g. 行動しにくい環境だった。

|                  |     |
|------------------|-----|
| ・狭隘な場所であった。      | いいえ |
| ・暑かった(寒かった)。     | いいえ |
| ・野次馬が多かった。       | いいえ |
| ・現場周辺の地理に不案内だった。 | いいえ |

h. 足場が悪かった。

|                  |     |
|------------------|-----|
| ・足元が躓いたり滑りやすかった。 | いいえ |
| ・足元の強度が不足していた。   | いいえ |

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

|                                     |     |
|-------------------------------------|-----|
| ・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)           | いいえ |
| ・指示内容に誤り・偏りがあった。                    | いいえ |
| ・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。) | いいえ |

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

|                |     |
|----------------|-----|
| ・隊員の連携が不十分だった。 | はい  |
| ・隊員が不足していた。    | いいえ |

○その他

l. その他の理由があった。

|  |
|--|
|  |
|--|

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

現場活動は急がなければならないが、無理な行動は差し控えるよう全職員へ周知徹底するよう指示を行った。また、現場検討会を各所属で行った。現場活動において焦りが生じないよう訓練を重ね、隊員個々の資質の向上に努めるよう指示をした。

○装備・資機材の対策について

火災現場における携行資機材の再確認を行った。また、資機材訓練を行い、各々の資機材の特性の認識を再徹底した。

○活動環境の対策について

火災現場は、切迫した状況に陥りやすい環境であり、特に経験の乏しい若手職員にとって焦ってしまう状況である。隊員が焦りを生じないよう分隊長が、現場において明確な指示及び隊員を落ち着かせるよう声掛け等のコミュニケーションをすることを指示した。

○指揮・情報伝達の対策について

分隊長による指揮は、安全かつ迅速な活動に繋がるようにすることを分隊長へ指示をした。

